

八戸中心商店街連絡協議会

「建築廃材活用による屋台村づくりへの協力とリサイクル活動」

1. 取り組みの概要

- 八戸中心商業街区活性化協議会（現在は八戸中心商店街連絡協議会に改組、12 商店街で構成）では、エコ商店街形成モデル事業の一環でエコフェア等リサイクル意識啓発活動の実施とともに、建築廃材等を活用した屋台村づくりへの協力参画につとめている。
- 屋台村では生ごみの堆肥化など環境保全に取り組みとともに起業家育成につとめ商店街にエコ意識が醸成された人材を供給され、商店街単独事業でも街路灯などの LED 電球導入などエコ意識が浸透している。

2. 商店街概要

商店街名	八戸中心商店街連絡協議会
所在地	八戸市堀端町 2-3 八戸商工会議所内
構成数	12 商店街
URL	

3. 取り組みに至る経緯・背景

- ✓ 八戸中心商業街区活性化協議会（通称・商活協、平成 22 年度より八戸中心商店街連絡協議会に改組）では、これまでに共通駐車券事業やはちのへ共通商品券事業の取り組みのほか、市内商店街の活性化のための協議機会（定例会）を毎月設け、まちづくりの横断的・総合的調整役を担ってきている。
- ✓ 商活協では平成 12 年に資源循環型社会の実現に向けて、エコ商店街形成モデル事業委員会を設置し、環境にやさしい中心商店街を目指して、八戸中心商店街エコステーションの設置とともに資源ごみ物の分別収集や、エコフェアの開催により消費者への啓発活動につとめてきた。
- ✓ 東北新幹線八戸駅開業（14 年）に向けた取り組みとして、13 年より八戸商工会議所では八戸観光開発プラン推進特別委員会の中で食の文化をテーマとした「屋台村構想」が打ち出される。
- ✓ 八戸市・八戸商工会議所等で設立された新幹線八戸駅開業事業実行委員会（食文化創造部会）の中で具体化が進められ、当初描いていた期間限定のイベント型屋台村の構想から中心商業街区の活性化策のひとつとして、空き店舗・空き地活用による常設型屋台村づくりの構想へと転換していくことになる。
- ✓ 一方で、民間団体（八戸エコ・リサイクル協議会）ベースで同様の動きが活発化し、食文化創造部会のプランと民間プランが融合し合い、「環境対応型 屋台村構想」の実

現に向かうこととなる。

4. 取り組み内容

(1) 取り組みの実態

①リサイクル事業（現在終息）

- ✓ 商活協では平成 12 年、八戸中心商店街にエコステーションを設置、中心商店街の各店舗から排出される資源ごみを収集し、リサイクル業者に引き渡す活動を行ってきた。
- ✓ 主な収集は、各店舗事業所から出た紙類、割り箸、使用済み乾電池である。
- ✓ 回収した紙はエコロール等のトイレットペーパーや段ボールの芯材に、割り箸からは三菱製紙工場の上質紙やコート紙に再生されている。
- ✓ 消費者への環境活動の周知を目的に、人気キャラクターのドラえもんをイメージした空き缶分別機の設置をはじめ、中心商店街イベントに「エコフェア」を取り入れ、環境に関する紙芝居などソフト事業に取り組んできた。

[写真] エコステーション内に設置された空き缶分別機



(出典) 八戸中心商業街区活性化協議会ホームページより

②環境対応型 屋台村づくり

- ✓ 14 年度より「八戸屋台村 みろく横丁」の名称で開設。事業主体は有限会社北のグルメ都市。
- ✓ 店舗数は 25 店舗、六日町商店街に面する「やあんせ市」(11 店舗) と三日町商店街に面する「おんで市」(14 店舗) で形成されている。

[写真] 八戸屋台村みろく横丁（おんで市）



- ✓ 屋台村づくりの基本コンセプトとして、①新幹線八戸駅開業を機に、八戸の食材や郷土・名物料理を提供し来街者へのおもてなしの目玉、②中心商店街の活性化に向けたエリア、③再生品や建築廃材等を活用した屋台建設、生ごみの堆肥化、割り箸の再生など環境対応型の推進、を掲げている。
- ✓ 屋台村の村内には、生ごみ処理機の設置のほか、1か月のリサイクル状況が分かる「エコ掲示板」を設置し来街者に向けた見える化に取り組んでいる。

[写真] 「八戸屋台村 みろく横丁」設置のエコ掲示板



- ✓ そのほか、店舗参加には厳しい入居審査があり、3年サイクルで全店入替制を採り入れ、起業家出店の場を提供し‘若手起業家づくり’を目指している。また中心商店街への自主開業の機会を創出している。

(2) 事業運営上の問題点とその対応

- ✓ 協議会の取り組みは、そのときどきの時代・社会背景に基づき活動の変化してきている。
- ✓ 12年に始まったリサイクルステーションの取り組みは社会の動き等が影響し現在は廃止されるとともに、少子高齢化社会を反映したコンパクトタウンづくりを目指したイベント（ソフト事業）中心の取り組みに転じてきている。

[表] 八戸中心商業街区活性化協議会の動き

年	協議会／中心商店街の動き	社会の動き
12年	リサイクルステーション開設 ・各店舗からの資源ごみ回収 エコフェア開催	循環型社会形成推進基本法制定、 八戸市中心市街地活性化基本計画策定、 大規模小売店舗法施行、 改正都市計画法施行
14年	八戸屋台村みろく横丁開設 新幹線開業イベント	東北新幹線八戸駅開業
15年	にぎわいストリートフェスティバル事業開始（ホコテン）	イトーヨーカ堂八戸店退店
18年	ストリートウエディング事業開始	改正中心市街地活性化法施行
20年	Kis fun town～こども商店街をつくろう～事業開始	八戸市中心市街地活性化基本計画認定

（出典）八戸中心商店街連絡協議会事務局資料より

- ✓ 環境対応型屋台村づくりで取り組み始めた「みろく横丁」についても屋台村村内でのリサイクル活動は継続されつつも、中心商店街にある他の横丁全体への波及までに至っていない。
- ✓ しかしながら、八戸屋台村は基本コンセプトに基づき、3年に1度の店舗入れ替えを実施していることから、起業家育成の場の提供とともに、中心街商店街への出店機会（空き店舗対策）に寄与し、環境保全の意識を持った商店主の誕生が期待されている。

（3）事業継続のポイント

協議会のエコ活動について

- ✓ 協議会は21年4月でもって解散し、同月に「八戸中心商店街連絡協議会」（構成員12商店街、事務局は八戸商工会議所、通称・商連協）として改組し、商連協では「はちのへホコテン」や「はちのへ市日」などのイベント事業中心に各商店街との商業機能の向上に向けて取り組んでいる。
- ✓ 協議会構成員（12商店街）のうち、十三日町商店街では平成3年より街路樹に設置しているイルミネーション事業について、街路樹の剪定作業や老朽化によりイルミネー

ション全面入れ替えに当たり省エネとともに二酸化炭素削減につながる LED ランプを採り入れている。これまでの中心商店街で取り組んできた環境保全活動の意識が同事業においても生かされている。

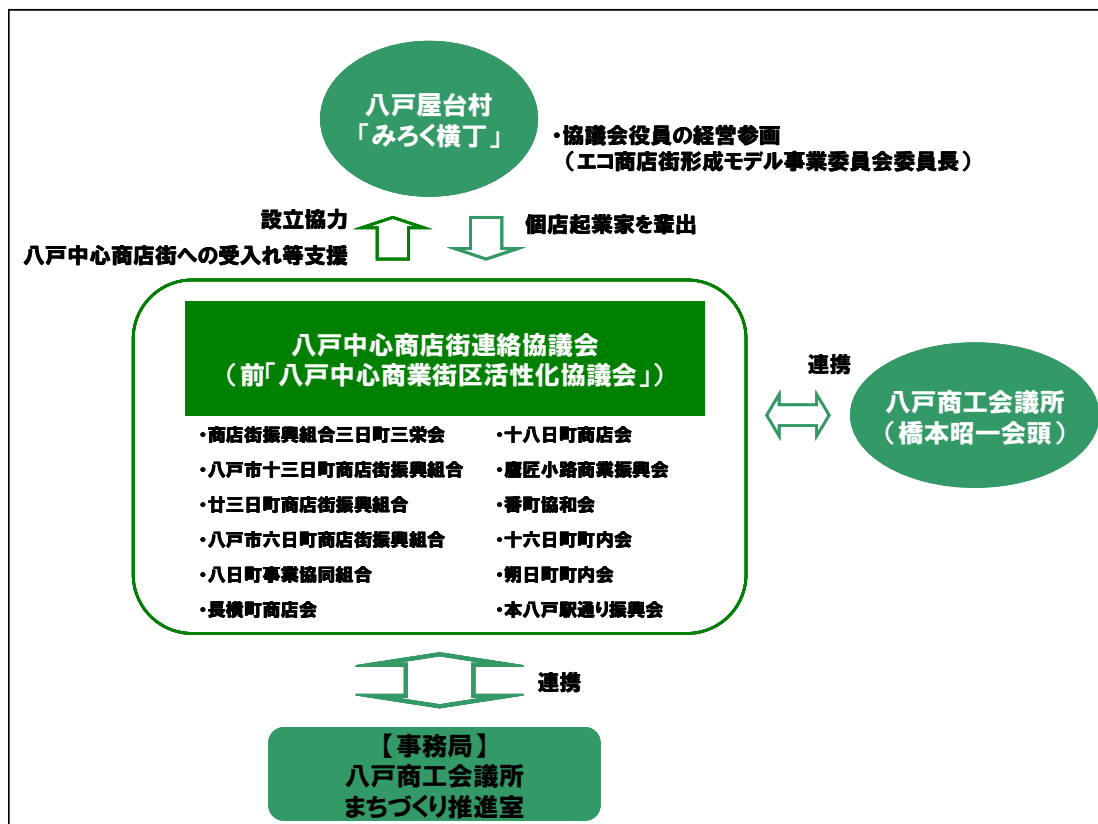
環境対応型屋台村づくりについて

- ✓ 八戸屋台村の事業運営会社「有限会社北のグルメ都市」に、当時の構想段階から関わってきた八戸中心商業街区活性化協議会会長（前エコ商店街形成モデル事業委員会委員長）が経営参画しており、中心商店街のリサイクル活動を推進していた立場柄「エコ商店街づくり」イズムが屋台村事業に受け継がれている。
- ✓ また歴史的に見ると、八戸中心商店街は戦後以降、昭和の時代時代に映画館など娯楽施設が誕生し来街者の空腹を満たすために施設周囲に飲食店街が生まれ、それが小路や横町（横丁）化し現在に至っている地域特性がうかがえることから、平成の横町として誕生が「みろく横丁」であり、社会や時代のニーズを受け入れ反映してきた中心商店街の存在は大きい。

5. 地域とのつながり

- ✓ 現在の商連協は、八戸市内の中心商店街を構成する 12 街区の商店街で成り立っている。
- ✓ その事務局には八戸商工会議所が前身の八戸中心商業街区活性化協議会当時から関わりを持ち、商工会議所会頭には代々、中心商店街から輩出されており、中心商店街と商工会議所とのつながりは深い。
- ✓ 環境対応型八戸屋台村の事業運営会社「有限会社北のグルメ都市」には、同事業立ち上げ構想時から関わりを持ってきた八戸中心商業街区活性化協議会（エコ商店街形成モデル事業委員会）の役員ら中心商店街の関係者が取締役として経営参画している。
- ✓ また八戸屋台村で店舗開設し 3 年間務めた起業者に対して、八戸中心商店街では起業者を受け入れるべく、空き店舗への自主開業（個店）の誘致を講じている。

[図] 八戸中心商店街と八戸屋台村とのつながり



6. 取り組みによる成果

- ✓ 環境対応型屋台村づくりでは、新幹線八戸駅開業当時で、屋台村への集客効果は来街者全体で観光客6割に達している。現在は地元の来街者が6割と逆転傾向である。
- ✓ 屋台村出店者が日頃のリサイクル活動により、開店3年後の中心商店街への新規開業以降、環境意識の高い店主が商店街に輩出されることとなるため、同事業における環境を配慮した意識啓発の機会が生かされているといえる。
- ✓ 商活協当時のエコ商店街形成モデル事業での環境保全意識が、今日の各商店街活動(十三日町商店街のイルミネーションのLED化)に息づいている。

7. 今後の課題・展望

- ✓ 商店街活性化のうち、中心商店街に多く形成されている横丁通りの回遊性を持たせた「こみちづくり」が課題である。
- ✓ 少子高齢化時代に即した、コンパクトタウンを目指し、にぎわいストリートフェスティバル事業(はちのへホコテン)の継続実施が望まれる。